神情協会報
KIA Wave［キアウェーブ］
KANAGAWA INFORMATION SERVICES INDUSTRY ASSOCIATION
No. 92
2013/3/15

三団体合同賀詞交歓会
第24回軟式野球大会
第４回フットサル大会
第６回神情協大クリスマスパーティ
第５回神情協実業団ゴルフ選手権大会
横浜ITフォーラム2012
第２回メンタルヘルスセミナー
第15回神奈川県私立大学就職研究会と神情協の情報交換会
第２回労働福利セミナー
経営者による『女性従業員に対しての想いを語る』座談会
ワークライフバランスセミナー
第８回キャリアアップセミナー【笑う】コミュニケーション・セミナー
「ICT TOUR in ASIA」インドネシア研修
会員企業訪問（アドバンスドプランニング株式会社／株式会社アルファ・ウェーブ／株式会社YSLソリューション）
海外視察研修マレーシア・シンガポール
この人いいね New!
新会員紹介

平成25年神奈川県情報サービス産業三団体合同賀詞交歓会

開催日：平成25年1月18日（金）
広報委員会

参加者もほころぶ明るい兆しの賀詞交歓会

平成25年1月18日（金）17時より横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズの日輪の間において情報サービス産業三団体による賀詞交歓会が開催された。

国、県、市や普段お世話になっている関係諸団体先からのご来賓、関東近県の友好団体及び三団体の会員が総勢500名集まり、盛大に催された。

冒頭、三団体を代表して神奈川県情報サービス産業協会の池田会長が挨拶に立った。そして、ご多忙な黒岩神奈川県知事にも駆けつけていただいた。

（池田典義神情協会長の挨拶要旨）

平成20年に我が情報産業界はピークを極めていたが、リーマンショックの発生により不況に陥り、情報産業界のみならず世界的に経済が低迷し現在に至っている。我々の業界三団体は、平成20年と現在の企業数、会員数を比較してみると現在は健康保険組合、厚生年金基金が9％、神情協が5％の減少と、他の産業や他県の団体と比べ、僅かな減少に留まっており、我が神奈川県情報サービス産業は力強い立場を保っている。

業界全体では現在19兆円の売り上げだが将来26兆円の市場となる。それは最近クラウドコンピューティングが出現して、誰もがどこからでもコンピュータを利用でき、運営費用、データの管理の手間が省けるようになった。即ち、従来のコンピュータ利用はユーザーがコンピュータを持ちソフトやデータも自分で持って管理していたが、クラウドコンピューティングではインターネットを通じて共通のサービスを受けることができる。我々の業界でも、従来大手のコンピュータ企業に頼らざるを得なかった中堅・中小のソフトウェア企業が、クラウドコンピューティングを活用して独自にアプリケーションを開発でき、コスト削減によって顧客に廉いコンピュータサービスを提供できる様になり、フラットな繋がりを持つようになる。

我が情報産業は、開発事業からサービス事業へと発展し前途洋々たるものだと、力強い挨拶であった。

（黒岩祐治神奈川県知事のご祝辞）

年明けて、あっちこっちの賀詞交歓会に出席しているが疲れません。元気一杯で、2月3日に行われる神奈川マラソンに参加します。今朝も5キロ走ってきました、と開口一番。知事の身体は「全開」なのだそうだ。

新年に当たり知事は年頭の記者会見で「神奈川全開宣言」を発表された。

その「全開宣言」とは、

1、「いのち全開宣言」健康寿命日本一を目指す
2、「電子化全開宣言」神奈川県全体の電子化により、県民の暮らしの利便性を高める
3、「潜在力全開宣言」神奈川のポテンシャルを生かして新たな活力を創造する

以上の3つであるが、特に2番目の「電子化全開宣言」では、現在「マイカルテル」を勧めている。「お薬手帳」の電子化から始める。スマホを開くとその人の過去の病歴が分かる様にするものでこれを医療と情報の入り口としたい。県民の情報をプールして効率化を図りたい。そのためには「個人情報」どうするか、問題はあるがこれを解決するために情報産業の皆さんの力が必要である。皆さんと一緒にやってゆきましょう。と挨拶された。

広報委員会　萩原成美

第24回軟式野球大会

開催日：平成24年11月3日(土)
労働福利委員会

毎回白熱する野球大会！今年は素早い展開に緊迫感が増した試合となる

11月３日(土)伊勢原球場において、第24回神情協軟式野球大会の三位決定戦､決勝戦が行われた｡当日は朝方肌寒かったものの、秋らしい爽やかな空気の中での大会最終日となった。

各試合の模様は以下の通りであった。

三位決定戦　フジシステムズ　vs　東計電算

フジシステムズは立ち上がりを攻め、一回表に四球を足がかりにセンター前への先制タイムリー、さらに押し出して3点を先制。二回表にも押し出しで２点を追加し、試合を優位に進めた。

六回表、七回表にも２点、１点と効果的に追加点を加えた。対する東計電算は六回裏に２点を返すにとどまり、序盤の点差を挽回できなかった。試合は８対２でフジシステムズが勝利し、第三位となった。

決勝戦　NTTソフトウェア　vs　シンポー情報システム

決勝は昨年と同一の好カードであり、期待を裏切らないテンポの良い、緊迫した試合内容となった。

先発両投手とも制球が抜群で､序盤をともにゼロに抑えた。また、三回裏のシンポー情報システムの二死二三塁のチャンスでのセンター深めの飛球を抑えるなど堅守も光った。

均衡が破られたのは四回裏、死球のランナーが盗塁とタッチアップで一死三塁のチャンス。ここで右中間への三塁打が飛び出し、シンポー情報システムが先制。

その後も投手戦が続き、四回の１点を守り切ったシンポー情報システムが、１対０で競り勝ち優勝を決めた。

大会MVPには決勝を完封したシンポー情報システムの西室洋祐投手が選ばれた。

ニューテック株式会社　戸高秀和

第４回フットサル大会

開催日：平成24年11月10日(土)
労働福利委員会

選手応援団総勢700名を超える会員企業がまる1日フットサルを楽しむ

平成24年11月10日(土)第４回フットサル大会が『横浜みなとみらいスポーツパーク』にて、秋晴れの中、開催された。

今大会参加チームは、57チーム、参加チームの選手570名、応援団を含めると700名を超える会員企業の皆様方が集まり盛大なイベントとなった。

大会当日は天候に恵まれ、絶好のコンディションのなか、「神奈川県サッカー協会審判委員会フットサル部」の審判員の協力を得て、スムーズに進行した。

開会式は９時に始まり、開会の言葉　板橋委員長　会長挨拶　池田会長、第一ブロックの１番くじを引いた　クロステックの黒川祐司選手の力強い宣誓のあと、池田会長および森副会長の始球式で大会の幕開けとなった。

予選リーグは、57の参加チームを12ブロックに分けて、10分１本勝負のブロック内総当たりを行い、各ブロック１位のチームが決勝トーナメントに進むことになる。

２時頃には、各ブロック予選１位通過12チームが決定、各ブロック２位チームが抽選で４チームが決勝トーナメントに進み、計16チームで決勝トーナメントを競った。

どの試合も、日頃の練習成果が出たところ、出なかったところがあったが、選手・応援団が一緒になり声援を送って素晴らしいものだった。

今年の、上位チームは常連チームからではなく、優勝は東計電算、準優勝はNECソフト 神奈川支社、３位はアルファ・ウェーブ、４位はフジシステムズという結果になった。

株式会社横浜電算　金子秀光

第６回神情協大クリスマスパーティ

開催日：平成24年12月21日(金)
企業経営委員会

新企画「ペアでクイズに挑戦！」が大好評！

第６回「神情協大クリスマスパーティ」が、12月21日にホテルキャメロットジャパンで開催された。

今回も若者向けのイベントという性格を強く押し出し、楽しんでいただける企画であったためか、男性78人女性50人の参加となった。年々若い社員の参加率が向上している。

ゲームでは、当日入場券に記載された番号同志がペアとなり、一緒にクイズに答える全員参加型を意識した内容で、意気揚々とクイズに答えていた姿が印象的であった。ペアで賞品を受け取る姿は、最高のクリスマスプレゼントを獲得されたような雰囲気で盛り上がっていた。最後は全員の「あわてんぼうのサンタクロース」を合唱し、盛大なクリスマスパーティの幕が閉じられた。

突撃インタビューでは

（クイズで２位の自称蟹博士42歳既婚男性）

問題は日頃勉強していたことだったので簡単であった？　最後の問題もSEハンドブックを毎日読んでいた？というのは嘘のようであるがまぐれに当たり、今後はSEハンドブックをもっと活用していただけそうだ。

今回参加された目的は良い方がいれば？と冗談ばかりの回答だったが、クリスマスパーティを大変エンジョイされていることが伝わってきた。

（クイズで優勝した入社１年目初参加の21歳独身女性）

パーティ参加の目的は、クリスマスを盛大に楽しみ、そして良い方がいればと出会いを密かに期待していた。インタビュー時はまだお目に留まる方がいなかったが抽選会までは時間があるので僅かに期待を持たれていた。

（抽選会でディズニーペアチケットが当たった22歳独身男性）

当たったチケットは最初両親にプレゼントするつもりと話していたが、もし今日いい方がいれば声をかけてデートに使いたいと心を弾ませていた。結果はどうであったか期待したいものだ。

（抽選で最高賞品タブレットが当たった26歳独身男性）

今回で3回目の参加であるが最高の賞品であったことに感激していた。出会いを聞いたところペアも同じ会社の方であったため、今回は期待薄であるがまた次回期待したい。

今回初の、ペアの企画は大変楽しいので、できたら同じ会社の方と一緒にならないようにと要望を話しつつ、是非今後も実施してほしいと次回を楽しみにされていた。

広報委員会　中山いその

第５回神情協実業団ゴルフ選手権大会(企業対抗)

開催日：平成24年11月28日(火)
企業経営委員会

企業経営委員会では、24年度も前年に引き続き『神情協実業団対抗ゴルフ選手権大会』を開催した。
本大会は、1社2名1組で出場する企業対抗の実業団対抗戦で、各企業の選抜参加者2名のグロススコアで争われる。(参加枠は３名)
24年度の栄えある優勝企業は、日本データスキルだった。

■場　所　　レイクウッドゴルフクラブ
■日　時　　平成24年11月28日(火)
午前8時35分　東コースアウト・イン　スタート
■天　候　　晴天、気温低め

着　順	会　社　名	参加者名	ネットスコア	グロス平均
優　勝	日本データスキル	小川　正博	78	82.0
		北川　一雄	86	
準優勝	横浜ソフトリズミック	佐々木文男	84	86.5
		関塚　信夫	89	
3　位	ブレイド	佐藤　英夫	85	87.0
		小野寺伸晃	89	

横浜ITフォーラム2012

開催日：平成24年11月22日(木)
横浜市交流委員会

業界の先駆者の講演とあり熱心に耳を傾けていた

第７回を迎えた今回は「スマートフォンを取り巻くビジネスと環境変化」という時流に乗ったテーマを掲げ横浜情報文化センター６階情文ホールで開催した。

まず基調講演は日本で24社しか無いアップル公認コンサルタント資格を持つ イシン代表取締役 大木豊成さんの「５年後に残るSIer考える」でスタートした。スマートフォンやタブレット向け開発を通して、現在のSIerが抱える問題や今後の取るべき道筋を解りやすく講演頂いた。特に「人月という単価の消失」という概念は個人的に目から鱗の発想で、一時Ustream担当を忘れ聴き入ってしまった。

続いてLTEに代表される4G回線への移行により何かと話題に事欠かないインフラ側からの意見としてNTT コミュニケーションズ 営業推進部門長兼企画部門長 工藤 潤一さんが「モバイル化の進展ならびにスマートフォンの普及に伴う諸課題」を講演。華々しく見えるソーシャルやアプリの裏側で増大するトラフィック問題にプロバイダがどう考えているのかインフラ整備の問題点と課題、展望を語って頂いた。やはりWi-Fiスポットへの誘導が鍵であるようである。

３番目の講演者はライフツービッツ ディレクター＆ファウンダー 片山崇さん。今やLINEの普及やDeNAの参入で大激戦区となっている無料音声通話アプリ分野で早々に25万ダウンロード(2012年５月時点)を記録している「OnSay」を世に送り出した人物である。「勝負するマーケティング お金をかけないマーケティング」というテーマで、スマホ時代にどうしたらモノが売れていくのかを豊富な経験を基に講演頂いた。口コミはもちろんの事バイラルマーケティングの重要性を改めて気付かされた。

４番目の講演者は共同主催者である横浜市経済局新産業振興課 環境・ＩＴ担当課長 早川恵庸さんが「IT産業にかける期待」というテーマで、横浜市が目指しているICT技術の動向と展望を講演頂いた。医療から農業まで幅広くカバーされているあたりさすがは横浜市という内容の中で一際目立ったのが昨年の本フォーラムのテーマでもあったスマートグリッドの動向である。実用化を目指してじわじわと進んでいることが伝えられた。

今回のフォーラムの参加人数は105人となり定番となってきたUstream中継視聴者数の30名を入れると135人のご参加をいただく盛況となった。講演会後は講演者の方々を交えての懇親会を行い終始和やかな中で情報交換が行われ幕となった。

株式会社e2info　石田　哲

第２回メンタルヘルスセミナー

開催日：平成25年2月1日(金)
労働福利委員会

受講者同士の会話など多くの実習を取り入れた講習会に参加者も満足

２月１日(金)相鉄岩崎学園の教室にて、ヒューマンラーニング 代表取締役　松本幸夫さんを講師に迎え「若年者のコミュニケーションとメンタルヘルス」が開催された。

講師の松本さんは、小学生時代から強度のあがり症で悩み、それを克服し、今ではスピーチ・プレゼンテーションを仕事に活躍されている。

さて、今回のセミナーでは、若年従業員を多く抱えるＩＴ業界で、職場での上司、リーダー、先輩が若年従業員とのコミュニケーションをどうとったら良いのか、また、どうやったら若年従業員から話を多く聴きだせるのか、具体的なコミュニケーション方法について以下の講義があった。

１．先入観をとって相対する。
２．自分自身のタイプを知る。
３．言いたいことを言わせる聴き方５代ルールとDESC話法
４．悩みを消し去る人生の目標を持たせる
５．体と心をリラックスさせる呼吸法とストレッチ

はじめに、受講者同士で互いの第一印象について話し合い、私たちが普段、人と接するとき何気なく先入観を持って相手に接していることを知った。

また、相手を知る方法としては、深層心理などを取り入れた質問をして相手の人生観、願望、将来への想いなどを知る方法が紹介されました。

人を見るときには、短所が先に目に入りやすく否定的に捉えがちになるので、改善思考で見るようにするそうです。

コミュニケーションの仕方は、自分の性格を理解した上で、相手の性格にあわせて対応する。話を聴くときは、必ず相槌を打ちながら聴く、また、表情を観察しながら聴くことを心がける。話をする時は、感情的にならず、相手に受け入れ易い話し方をする。

①Describe: 先ず状況を述べる　②Express: 自分の意見を述べる　③Suggest: 提案を述べる　④Consequence: 結果を述べる というDESC話法の紹介があった。

最後に、体と心をリラックスさせる方法ではストレス解消の仕方として、声を出す、汗を出す、知恵を出すことが効果的だそうだ。また、簡単な呼吸法の改善でストレスを軽減する方法が紹介された。

以上、今回の講習会は、実習が多く取り入れられた盛り沢山の講習会だった。

株式会社オルトス　瀧口光功

第15回神奈川県私立大学就職研究会と神情協の情報交換会

開催日：平成24年12月4日(火)
産学連携委員会

神情協就職支援活動、大学就職指導状況を知る機会となった

「第15回神奈川県私立大学就職研究会(県就研)と神情協の情報交換会」が平成24年12月４日(火)横浜みなとみらいクイーンズフォーラムに於いて、県就研校19校23名、神情協59社56名の参加を得て開催された。神情協大西産委員長からIT業界は"日本を支える産業"であり、IT企業の人材を増やすには県就研との協力体制が必要である。県就研幹事校の明治大学蛯沢さんより学生の就職支援には、神情協との連携が重要とのお話があった。

意見交換会では、現４年生の採用継続依頼、３年生は「おとなしい学生」だが学内説明会、ＳＥ講座、インターンシップを活用し、徐々にIT志望が増え、文系女子もIT業界に向いている。学内説明会の中で採用選考、面接まで出来ないか、OB/OG訪問が容易に出来る"しくみ作り"をして欲しい等の意見交換が行われた。

閉会に当り、神情協常山常務理事より、学生と企業を結ぶキッカケを作ることが大事、県就研と神情協で"共催"型で進めて行きたいとの話があった。

会場を変えて行われた懇親会では、野木神情協副会長の挨拶、県就研幹事校の乾杯で始まり、名刺交換、業界セミナーへの学生誘導、学内説明会、求人連絡方法等々、県就研と神情協で人脈構築を含め、大いに盛り上がりを見せた。今後も、協会会員企業の皆さん、並びに県就研各校の皆さんの協力をお願いしたい。　　株式会社ＩＳＴソフトウェア　渡部雄三

第２回労働福利セミナー

開催日：平成24年12月7日(金)
労働福利委員会

『労働者派遣法改正法施行に伴う抜本的対応とコンプライアンス遵守経営の実践』

平成24年12月７日(金)日本丸訓練センターにて、アイ・アーク 代表取締役 六反田和幸さんを講師に迎え、平成24年度第２回労働福利セミナーが開催された。

労働者派遣法改正法が施行されてすぐのタイムリーなテーマで、労働者派遣法改正の背景、概要からビジネスリスクの回避のための抜本的対応策まで丁寧に解説頂いた。

そもそも労働者派遣法は労働力の短期的・一時的な需給に対応するものとして法制化されたが、リーマンショック以降の不況による派遣労働者の雇止め、解雇が社会問題となり、それまでの規制緩和から規制強化の方向になった。派遣元事業者・派遣先事業者双方による労働者保護が求められる時代になったといえる。法改正により気をつけなければならない施行項目が多数あったが、経営者としては小手先対処ではない、コンプライアンスを強みにする能動的対応が必要だと実感するセミナーだった。

株式会社インカレージ　至田勝紀

経営者による『女性従業員に対しての想いを語る』座談会

開催日：平成24年9月26日(水)
女性活躍委員会

経営者側の本音を聞く会として大変有意義な座談会となった

９月26日(水)横浜国際ホテル会議室にて、「経営者による『女性従業員に対しての想いを語る』座談会」を開催した。

2009年より毎年開催しているワールドカフェスタイルでの意見交換会「女性座談会」で出た意見を一部公開し、その内容も含め経営者側の本音を聞く会として実施した。

前回は2010年に一度、女性幹部の方も参加しての「女性活用に関する座談会」を開催しているが、今回は趣向を変え参加者が全て男性経営者並びに幹部の方々という中で白熱した議論が行われた。

まず紹介を兼ね、各社の男女雇用比率や女性従業員について話をした後、「女性本人たち」「会社などの職場環境」の二つの視点から、常日頃考えている女性社員や女性幹部に対する期待や要望等について、オフレコのフリーディスカッションで忌憚の無い意見を頂いた。

座談会は女性従業員に対しての意見を頂くということで始まったが、それに限らずいろいろ建設的な意見が出され、大変有意義な会となった。参加の皆さんが男女の区別無く個人の特性を生かした人材活用をしていきたいという意見でまとまった。

昨今、働く女性に関する記事を目にすることが多くあるが、ある記事に、女性の潜在力を引き出し、活躍を推進することは、企業や社会の活力に繋がる鍵であると記載されていた。今回のフリーディスカッションで得られた貴重な意見は、今後の女性活躍委員会の活動の中でさらに深い議論に発展させていきたいと考えている。

株式会社アイネット　江副雄二

ワークライフバランスセミナー

開催日：平成24年11月8日(木)
女性活躍委員会

歌手として活躍されていた講師が介護とどう向き合うか熱く語って頂いた

ワークライフバランスセミナーは、講師に歌手として、また介護福祉士、介護支援専門員などの資格を取得し、高齢者の介護、福祉に携わっている松坂留衣さんにより「介護と仕事を両立させて、働き続けるために」と題して開催した。

「こんにちは！私がわかることは全てお話しします。何でも聞いてください！」

引き込まれるような第一声で始まったセミナーには、現在介護中または将来に備えて、といった22名の方々が参加した。

仕事と生活(家族)、そして介護の両立には、まず自分にとっての優先順位は何かを考え、誰に何ができるのかを家族で話し合うこと。企業においては介護休暇を気兼ねなく取得できる環境整備が、切実な課題として挙げられた。

また、特養ホーム、有料ホームなどの施設について、そこで働く介護士や入所者とその家族のこと、そしてどう介護と向き合っていくべきかなど、現場の生の声として、時間が足りないほど沢山の話しを頂いた。

誰しも「自分が認められることはうれしいこと」。たとえ痴呆になっても、自分が一番活躍した時期のことや、子どもの頃のこと、好きなものは覚えているのだそうだ。記憶をどの引き出しにしまったのかを忘れてしまうだけ。失敗したからといって否定したり、叱ったり、説得したりせずにきちんと認めること、介護される側の好きな音楽、行きたい場所、したいことは何か、どうすべきかを考えながら接することが必要である。

考えてみると、これは日々の生活の中にも通じることではないだろうか。

「大変、不安」とばかり思っていた介護が、少しだけ考え方を変えてみることで、心にゆとりをもって取り組めるかもしれない、そんな気付きを得られた有意義なセミナーだった。

有限会社スパイスメディア　鷹觜美保子

第８回キャリアアップセミナー【笑う】コミュニケーション・セミナー

開催日：平成25年2月7日(木)
女性活躍委員会

かつてない参加者全員が始終笑顔・笑い声が絶えないセミナーとなる

今回のセミナーは「笑うコミュニケーション・セミナー」と題し、志縁塾の杉本明穂さんを講師にお招きし日本丸メモリアルパーク訓練センターで開催した。参加者は40名。

司会は原田副委員長が務め、畠山委員長の開講挨拶の後、講師の杉本さんの自己紹介では、冒頭、「キを抜くとアホになるのでキ(気)を抜けないアキホ」と自分の名前を使われて皆の笑いを誘い、緊張をほぐすというコミュニケーションの基本を自ら実践しセミナーは始まった。

そこからが大変で、女性活躍委員会が主催したセミナーで受講者の参加型というものは多々あったが、ここまでめまぐるしく体を動かさなければならず、また、笑顔や笑い声が絶えないセミナーはなかったように思う。

ボールペンを親指2本で持って…と思ったら左手でグーチョキパー、右手でチョキパーグー…お次は両手で…

杉本さんは、「できることはつまらない。できないことをやると表情が生まれてくる。子どもの頃はできないことにチャレンジするのを楽しんでいたんじゃないでしょうか？」といいながら、いろいろな動作に参加者はチャレンジした。

さて、その後は、紙が配られ「共通点探し！」と書かれている。会場内の受講者の皆さんが挨拶もそこそこ、互いの共通点を見つけ、その紙に記載していくのだ。目標は10人。「酒飲み！」「めがね！」「右利き！」笑い声とともに飛び交う。10人の方と話をし、共通点を書きとめることができたのは一人だけだった。ここでの要点は「声をかけられるのをまっているのではなく自分から動く」、「他の人と自分の違いを探すのではなく共通点を探す」、ということだそうだ。

しかし、まだまだ終わらない。フラフープを使ったゲーム(？)、「私の取扱説明書(トリセツ)」「ポジティブリスト」の記入等々と休む間がないのだ。

そしてクライマックスは、「ラフターヨガ」だ。ギャグもユーモアも使わない。みんなで笑いあう。行動を変えて楽しい気持ちになる、ハッピーになる。元気のない人に元気を出せと言っても元気になれるわけがない。元気が出る行動をとっていると笑みがこぼれる、元気が出てくる、という考えに基づいているそうだ。おっしゃる通りだった。

セミナーは笑顔のうちに終了し、終了後も多くの方が笑顔のままで、行動を変えれば気分も変わるということを実感した貴重な経験となった。

株式会社アローズ・システムズ　平野雅義

「ICT TOUR in ASIA」インドネシア研修

開催日：平成24年12月6日(木)～10日(月)
川崎市交流委員会

IT企業との交流、教育目標をしっかり持つ大学の見学などで充実した研修となる

インドネシアは世界第４位の人口大国（２億４千万人）であり、多くの良質な若年人口、豊富な天然資源、さらにはバリ島をはじめとした一大リゾート地を有し、飛躍的な経済成長を続けている。今回はこの成長著しいインドネシアを訪問し、IT事情・観光事情を学んできた。現地(ジャカルタ)企業との交流会では、４社の若人より自社の事業内容や自社開発パッケージソフトの説明を受けた。事業分野によっては協業の可能性も感じ取る事ができた。

また、人材育成の現状把握の為、BINUS University JWC Campus を訪問し、学部長より同大学の教育目標・方針をお聞きし、校内を見学させて頂いた。卒業生の中には起業した方が多数いること、世界的に有名な企業で活躍されている方が多数いることなど、教育の質の高さがうかがわれた。

街は人と車とバイクで溢れており大渋滞していたが、活気あるインドネシアの現状を垣間見ることができ有意義な研修であった。

日本データスキル株式会社　豊田　昭

シリーズ会員企業訪問

■アドバンスドプランニング株式会社

新横浜にある、日本のライフラインを支える企業。アドバンスドプランニング株式会社(代表取締役 今井一範)を訪問。

社長室へ案内され、最初に目に入った光景は、パソコンと並ぶデバッグ機器だった。

今も現役エンジニアの今井社長は語る。「顧客の要望に応える為、努力すること。これが自信に繋がり、強みになる。」

長年培ってきた専門知識や優れた技術、更に自慢のセキュリティも、はじめは全て顧客の要望からだった。この会社では、社用携帯電話はもちろんのこと、従業員全ての携帯電話が定期的にチェックを受ける。もちろん社長の携帯電話も例外ではない。徹底したセキュリティ管理は、ライフラインの開発を行っているからこそ生まれる【一人一人の意識の高さ】の象徴ともいえる。

さらに、個人が担当しているどんな小さな問題でも、会社全体で取り組み、互いに助け合うことが当たり前の社風。ここにもまた、今井社長らしさを感じる。他社に負けない自慢の団結力・解析力。付加価値の高いシステム提供へのこだわり。それ故、顧客からの信頼も厚く、現在ではファームウェアやデバイスドライバから、アプリケーションまで幅広い仕事を請負っている。

今年は設立20年目。昨年は、横浜型地域貢献企業「最上位」認定も受け、今後は海外展開など、益々の活躍が期待される。

資本金：1,000万円
売上高：1億3000万円
社員数：19名
住　所：横浜市港北区新横浜2-7-17
　　KAKiYAビル 8F
Tel：045-478-3850
URL：http://www.apc-inet.co.jp/

■株式会社アルファ・ウェーブ

高輪の住宅街に本社を構える株式会社アルファ・ウェーブ(代表取締役社長 大指一郎)を訪ねた。それはオフィスというより私邸という雰囲気だ。車での訪問と告げると、車庫前のゲートが静かに開いた。ワクワクするような事務所だ。

1984年設立だが、1994年にこの自社ビルを完成、現在は他に三田開発センターと三田研修センターがある。

数百人月規模のシステム開発が得意な同社だが、昨年来アジャイル開発に取り組んでいる。社員が19名のチームが顧客ともネットワークで情報共有するというプロジェクトが順調に進捗しているそうだ。この成功は同社のアジャイル開発メソッドとして定着しつつあり、これをもとに今後は更なる技術力のアップを図り存在感のある会社にしていきたいと、2006年に社長に就任した大指氏は語る。また、アジャイルの取り組みには神情協会員で先駆的な企業の協力を得てスタートしたが、改めて神情協の価値を認識されたそうで取材者にとっても嬉しい限りだ。

社員の育成にも力を入れており、採用は新卒のみで充実した社員研修が自慢だ。野球、サッカー、バレーボール、スキー、テニス、ヨットなどのクラブ活動が盛んで、スポーツを通して社内だけでなく外部の人々との関係を大切にし、連帯感のある組織作りに成功されている。ヨット部は毎年レースに参戦する本格派だ。

自分も人生を謳歌したいし、社員にも謳歌させたい。それが大指社長の心意気だ！

資本金：9,950万円
売上高：9.5億円
社員数：155名（2012年5月現在）
住所：東京都港区三田2-18-5
　　アルファ・ウェーブビル
Tel：03-5441-5421
URL：http://www.alphawave.co.jp/

■株式会社ＹＳＬソリューション

株式会社ＹＳＬソリューション(代表取締役社長 中尾晴夫、以下ＹＳＬ)は、地元横浜で110余年の歴史をもつ老舗の石油商社「横浜石油」の戦略的IT子会社として1991年に設立以来、常に新しいビジネスにチャレンジし続け、また地域社会への貢献をモットーに事業を展開、当初3名でスタートした組織は現在、160名を数えるまでに成長されている。

これまで、石油事業以外にも不動産事業や介護事業など常に多角化を進めてきた横浜石油グループの盤石な経営基盤と地元での厚い信頼をベースに、ＹＳＬは、大手企業の基幹業務システム構築を中心に手掛け、様々な新技術の経験や業務ノウハウの習得を経て、最近では最新のクラウド技術とタブレット端末を利用した大手ゼネコン向け建設・建築プロジェクトの設計図面等情報伝達・情報共有ソリューション・システム「ＣｈｅＸ」(チェクロス)というＹＳＬ独自のソリューションを開発、順次サービス提供を開始して各地の建築現場などで極めて高い評価を得ている。

そもそも「ＣｈｅＸ」開発のきっかけとなったのは、若手社員からの提案を経営層が取り上げたもので、このように若手や現場の発想に耳を傾けることもＹＳＬの特徴となっている。

昨今、先行きが不透明な時代ではあるが、今後も常に新しいマーケットを求め、たゆまない挑戦を続けていくことで、さらに新たな世界を切り拓こうと全社一丸となって奮闘されている。

資本金：9900万円
売上高：18.7億円
社員数：160名（2012年10月現在）
住　所：横浜市中区長者町4-9-1
Tel：045-662-2811
URL：http://www.ysl.co.jp

海外視察研修マレーシア・シンガポール

開催日：平成24年10月18日(木)～23日(火)
教育研修委員会

マレーシア・シンガポールの今後のIT産業に期待が膨らむ

海外視察研修旅行が数年ぶりに実施された。従来は米国西海岸を訪問していたが、今回はマレーシア・シンガポールの研修旅行だ。期間は2012年10月18日から10月23日の6日間だった。

10月18日の9時過ぎに成田空港第2ターミナル集合だったが、参加者10名のうち何名かは集合場所で初めて会う方なので、遅れずに集合できるか心配したが、全員揃いマレーシア・クアラルンプールに向け出発した。現地時間18時に30分遅れで到着したがあいにくの雨で稲光が走ったり、思わぬ歓迎を受けた。

翌日はIT企業であるHPE SOLUTIONS (M)SDNを訪問し、マレーシアのIT企業の実情を説明してもらい、その後に質疑応答の時間があって有意義な時間を過ごすことができた。その後、マレー料理の昼食を摂りクアラルンプール市内の観光に向かった。

特に印象的だったのは国立イスラム寺院でその規模に圧倒され、間近に多宗教の国を実感したことだ。

10月20日早朝に次の訪問先であるシンガポールに向かった。宿泊先は「マリナー・ベイ・サンズ」だ。特徴的な建物でシンガポールのランドマーク的存在だ。夕食はセントーサ島での食事だったが、ここで凄いスコールに遭い、予定通りの行動が出来なかった。

翌日は自由行動で、市内繁華街を散策したりゴルフを楽しんだりカジノに行ったり、ホテルのプールに行ってホテルライフを楽しんだりして、それぞれがシンガポールを実感していた。

22日はASIA SMART GRID 2012を見学しスマートグリッドに対する知識を得ることが出来た。日本企業のブースもあり関心の高さが感じられた。

レトロなレストランで海鮮料理を満喫し、シンガポール空港から帰国の途についた。帰りは羽田空港に早朝着き、空港内で解散し今回の視察研修旅行を終了した。

マレーシア・シンガポールのIT産業はこれからもっと伸びるのであろうという感じを強く受けた研修旅行だった。

株式会社横浜電算　福山文博

この人いいね!

【家族でマラソン大会に参加しています！】

昨年から家族でマラソン大会に参加しています。今回は昨年参加した３大会をご紹介します。家族でマラソンに参加するようになってから、会話のネタが増え、コミュニケーションが格段に増しました！家族旅行の目的としてマラソン大会というのもなかなかいいですよ！

●家族構成：夫婦、長女(小３)、次女(小１)、長男４歳)

【8月　蔵王坊平クロスカントリー大会】

参加者(走行距離)：夫(8km)、私(4km)、長女(2km)

８月上旬、蔵王の標高は高いとはいえかなりの暑さでした。しかも、参加者を見渡すと小学生から社会人までほとんどが「○○陸上部」といったユニフォームを着た人達ばかりで、家族参加なんて見当たらない状況。皆で「まずい！場違いだった！」と最初から雰囲気に飲み込まれてしまいました(笑)

かなりのアップダウンと暑さでゴールに戻ってきた時は３人とも真っ赤な顔をしてヘトヘトになっていました。

帰りの車中では「キツかった！」「苦しかった！」で大盛り上がり、参加しなかった次女が話しに入れず「次は私も参加する！」とやる気をみせていました。

【10月　伊豆高原クロスカントリー大会】

参加者(走行距離)：夫(10km)、私(5km)、長女＆次女(1.5k)

今回は次女が初参加です。

１ヶ月ぐらい前から週末に走る練習をして参加した甲斐あってか、長女・次女とも難なく完走しました。しかし、大人のコースは本当に厳しかった！アップダウンの激しいコースなうえに、一箇所、壁のような急坂が200mほど続いているところがあり、何度も「歩いてしまおうか…」と思いました。

しかし、子供達に「諦めるな！頑張って走れ！」と激を飛ばした手前歩くわけにはいかないと思い、物凄い前傾姿勢になりながら頑張って上りきりました。ゴールした後に「私はあの急坂を歩かず走ったんだ！」と胸を張って家族に報告できたので、やっぱり頑張ってよかったなぁ～と思いました。

【12月　袋井クラウンメロンマラソン大会】

参加者(走行距離)：夫(10ｋｍ)、私(5ｋｍ)、長女＆次女(3ｋｍ)

風も強く、本当に寒い日でした。今回の大会はゴールが競技場の中のため、ゴール前の直線コースで観客席からの応援がよく聞こえてきました。「頑張れ！負けるな！抜かせ！」の大声援が聞こえると夫も私も子供達も最後の頑張りで２、３人抜かしてゴールすることができました。

この大会は完走するとメロンをもらえるため、子供達はメロン目当てに頑張っていました。しかし、もらえたメロンが想像より小さく、子供達は走ったことより、メロンが小さかったことが思い出として残っているようです(笑)

【最後に…】

いつも参加できない長男は何をしているかというと、会場で昆虫採集をしています。

伊豆では大量の大型バッタを捕獲し、小さい虫かごに無理やり詰め込んで、かなり可哀想なことになっていました。

NTTデータフォース株式会社　内山真希

新会員 INFORMATION

■正会員
TERAPOC株式会社
厚木市中町
代表 寺島　秀雄
http://www.terapoc.co.jp
TEL(046)259-9598
業務 ソフトウェア開発

■正会員
株式会社システムシェアード
千葉県松戸市根本
代表 徐　日柱
http://www.3sss.co.jp
TEL(047)330-0033
業務 システム開発・採用支援サービス・教育サービス

■正会員
t.waysコンサルティング株式会社
厚木市三田
代表 髙田　雅將
http://t.ways.jp
TEL(046)227-3500
業務 システムエンジニアを中心とした派遣事業

■正会員
ビジネット株式会社メディカル事業部
大和市大和東
代表 望月　昭宏
http://businet.co.jp
TEL(046)240-6271
業務 放射線科システム構築全般(RISシステム等)

発行所：一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会　広報委員会
電　話：045－316－2244　　FAX：045－316－2246
印刷所：株式会社マックス